



Y. F 英語英文学科 3年次

参加期間： 2018年8月10日～9月9日（4週間）

受入校： Nossal High School (Berwick, Victoria)

## I. 教育実習について

この学校では、9年生～12年生に日本語を教えました。9年生には、「あなたは何歳ですか？」「どうやって学校に行きますか？」のように、基本的な日本語の会話練習をしました。12年生は、日本の文化についての特別研究をしていました。日本の服装の文化や、結婚式の文化などについて各自で調べ、特別研究についてのスピーキングの練習、テストをしました。

学校には、男性の日本語の先生が2人いました。1人は、フランス語も教えていて、もう1人は、日本に留学経験のある先生でした。2人とも日本にとっても詳しくて、日本人の私でも知らないようなことも知っていました。

生徒が積極的に質問をしたり、指名される前に自ら問題に答えたりしているところを見て、授業態度に感心していました。日本よりも、教師と生徒の距離が近く、授業のない時には、職員室まで来て、スピーキングの練習をしてほしいと頼まれたこともあります。もちろん、恥ずかしくてあまり話さない生徒もいましたが、日本語の勉強には熱心でした。

ある日、「これは靴です。わたしはその靴を買いました。」を「これはわたしが買った靴です。」と、1つの文章にする、英語でいう関係代名詞に近いような勉強をしているとき、どうして「わたしは買った靴」ではなく、「わたしが買った靴」になるのか、と聞かれたことがあります。このように、わたしたち日本人が何も考えずに使っていることを、英語で説明するのが本当に大変でした。

日本語でなら説明できるのに、英語ではうまく言えないもどかしさ、生徒の言いたいことがあまり理解できなかったときの申し訳なさから、もっと英語を勉強しようというモチベーションも上がりました。また、最後の日に、職員室まで来て、「先生、ありがとう。すごうれしかったです。またきてね。」と頑張って覚えた日本語で挨拶に来てくれた時は、このプログラムに参加してよかったなと、心から思いました。





## II. ホストファミリーについて

わたしのホストマザーは、同じ学校で美術の先生をしている先生でした。ホストシスターは23歳で、とても明るい人でした。ホストファミリーが決まったとき、ホストシスターは1人だけと聞いていたのですが、家に着いたとき、もう1人女の子の人がいました。ブラジル人の女性で、ホストシスターの友達だそうです。なので、3人と一緒に生活しました。

家から学校までは、ホストマザーと一緒に車で行きました。家からは車で10分ほどだったので、すごく楽でした。ホストファミリーの食事はベジタリアンで、野菜嫌いのわたしは、ほんとうに不安でした。しかし、パスタや、キッシュや、パイや、サンドイッチなど、お肉を使わないおいしいものがたくさん食べられました。

学校のない土日は、毎週どこかに連れて行ってくれました。動物園に行って、コアラやワラビー、カンガルーを触ったり、野生のペンギンのパレードを見に行ったり、シティに行って買い物をしたりしました。オーストラリアといえば、暑いイメージでしたが、わたしの行った8、9月は、冬の終わりくらいの時期だったので、スノーボード好きのホストシスターの提案もあって、スキーもしました。

初めは緊張や不安もあってあまり話せませんでした。一緒にテレビを観たり、夜ご飯の手伝いをしたりして、距離を縮めることができました。3人ともすごく温かい人で、前に日本人の留学生を受け入れた経験もあり、4週間という短い期間でしたが、ほんとうに大好きになりました。





### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

わたしは、教師に興味を持ってはいましたが、特に教職課程の授業はとっていませんでした。このプログラムには、大学生の間に留学したい、という思いで参加しました。夏休みに1か月という短期間で有意義なことができるだろうと思って参加を決めたので、こんな気持ちで参加して大丈夫かな、と思ったこともありました。しかし、1か月のプログラムを終えて、ほんとうに参加してよかったなと思いました。また大学や就活が落ち着いたときに、もう一度学校にいて、生徒の成長を見たいと思うほどに、充実した4週間でした。

生活スタイルや食事など、日本とは全然違って、戸惑うこともたくさんありましたが、それもすべていい経験になりました。オーストラリアにはいろいろな人種の人が生活しています。なので、日本人に対して差別するどころか、困っているときは、知らない人でも優しく教えてくれます。分からないことがあれば、黙ってあきらめるのではなく、少し間違っても、英語でたくさん話しかけてみてください。



## S. N 英語英文学科 2年次

参加期間： 2018年8月10日～9月2日（3週間）

受入校： Geelong high school (Geelong)

### I. 教育実習について

実習先は公立の学校で7年生から12年生が在籍していて、1学年は約100人でした。私は8年生から12年生までの授業に参加させていただきました。日本語の先生は現地の先生方4名でした。授業は1限目から6限目まであり、8時50分から15時10分まで実習をしました。曜日によって1日の授業のコマ数は異なりましたが、少ない日で2コマ、多い日で6コマでした。生徒は教室にスマートフォンやタブレット端末を持ち込み、学校のWi-Fiに接続してインターネットがいつでも使える状況でした。



私がアシスタントしたクラスの生徒数は、8年生は約20名、9年生は約10名、10、11年生は合わせて約15名、12年生は5名でした。8年生は日本語かドイツ語が必修のため、日本語の授業に対しての生徒のやる気は様々で、先生が生徒に授業を集中させるのは大変そうでした。9年生以降の生徒は日本語の授業を自分で選択しているため、上級生になるほどモチベーションが高くなっているように感じました。12年生になると、生徒全員が授業に集中していて、宿題にもしっかりと取り組んでいました。



8、9年生の授業では自己紹介と日本の学校のプレゼンテーション、日本語の発音のお手本、生徒の日本語の発音やひらがななどの確認、私の好きな日本の音楽を紹介などさせてもらいました。9年生の授業では身体の名前の歌を歌ったりラジオ体操を踊ったりしながら日本語や日本の文化の勉強をしている時もありました。10、11年生の授業では漢字の書き順の確認や日本語の会話のテストの練習を一緒にしました。12年生の授業では少人数のクラスだったので

で日本語の試験のための会話練習を一对一でしたり、作文の添削をしたりしました。

1週目の金曜日には日本の中高生が実習校に来て、日本の生徒と実習校の生徒が交流する時間がありました。2週目はJapanese Weekという週で、昼休みに折り紙やブックマークを生徒と一緒に作ったり、マンガコンテストがあったり、お好み焼きバーベキューをしたりしました。お好み焼きバーベキューでは、先生、12年生の生徒と一緒にお好み焼きを作りました。たくさんの生徒や先生方がお好み焼き食べに来てくれたので生徒や先生方と関わる事ができる非常にいい機会でした。

# Teaching Japanese as a Foreign Language



毎週火曜日と木曜日には Home Group というクラス活動に参加させていただきました。生徒たちは教室に集まって自分の宿題や課題に取り組んでいました。木曜日は先生と希望者が日本で旅行をする Japan Tour というプログラムのミーティングにも参加させていただきました。日本での生活マナーを学んだり、日本で発表するオーストラリアの歌の練習をしたりしていました。

先生方は非常に優しく、私が学校内で道に迷った時や困ったことがあった時などに助けていただきました。お昼休みには職員室で先生方と会話をしながら昼食を食べていたので様々な先生方と交流できました。TJFL プログラムを担当して下さった日本語の先生は学校の事も学外の事もサポートしてくださったので、学校や学外の不安や心配は全く感じませんでした。また、私が授業で生徒と多く関わることができるようにしてくださり、私ができる様々なことをする機会をくださいました。自分がどう生徒に接したらよいか、どのように取り組めば良いのかなどを考えることができたので毎日が充実していて、少しずつ成長を感じることができました。



## II. ホストファミリーについて

私が通っていた学校の 11 年生の生徒の家に滞在させてもらいました。行きも帰りも一緒に歩いて登下校していました。日本の学校に 1 年間留学していたので、英語と日本語の両方で会話しながら歩いていました。ホストファミリーは 10 人家族で、家の中は非常ににぎやかで楽しかったです。予定していたよりも長く滞在することになりましたが、温かく受け入れてくださいました。家族全員が非常に優しく温かい家族でした。3 週間滞在させてもらって、本当に感謝しています。空港に到着した日に、ホストマザーと子供たち 2 人がメルボルンを案内してくれて、その後に家族みんなで夕食を食べました。不安を抱えて日本を出発しましたが、ホストファミリーと会ってからは一気に楽しみに変わりました。



ホストファミリーはスポーツマンだったので、子供たちのサッカー、フットボール、バスケットボールなどの試合やプロのラグビー、フットボールの試合に連れて行ってくれました。空いている時間は子供たちとフットボールもしていました。1 番上と 2 番目の女の子は私と年代で、



2 人と一緒にメルボルンを観光したり、ショッピングをしたりもしました。他には動物園やパーティー、親戚のお家にも連れて行ってきて、様々な経験をさせてもらいました。



学外の時間はほとんどホストファミリーと過ごしていたので英語を話す機会が多く、ホストファミリーみんなが今日の学校はどうだった、と尋ねてくれたり、日本の事や私自身の事も尋ねてくれました。自分が言いたいことが英語で話せないことが多かったため、もっと話せるようになりたいと思うようになりました。毎日が充実していて、帰国するのが惜しかったですが、またオーストラリアに行ってみんなに会うという目標ができました。3週間、本当に貴重な時間を過ごすことができました。



### Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

私はこのプログラムに参加して、たくさんの人に支えられていることを改めて実感し、自分自身が成長し、新しい様々な目標を見つけることができました。ホストファミリー、先生方、生徒との新しい出会いがあり、オーストラリアの文化を体験することができて、本当に良い経験でした。

先生のアシスタントとしての責任を感じることができ、日本では経験できないことや様々な出会いがあったので、このプログラムに参加すれば何か自分の為になることを得られると思います。3週間は短い期間でしたが、毎日が充実していたので本当に参加して良かったです。